2010年度 5月版　第2号

研修医が作った

地域医療新聞

ここ紀南病院で先月の産婦人科に引き続き、今月は内科でお世話になっています。先月号の編集長の金子先生が研修を終えて東大病院に帰って、今月からは聖路加病院から高麗先生がやって来ました。高麗先生の話は高麗先生の記事に任せて・・・。

それにしても、始めの一文字が一緒のせいか、PHSのワン切りが増えました。

内科での研修はメインが外来であった産婦人科研修とは違い、病棟業務がメインでした。3年目の先輩医師の元で一緒に患者さんを診させて頂くのですが、分からない事、検査してみたい事や、治療方針などを気楽に相談できる事は自分にとって色々考えるきっかけになりました。1年後に自分も同じように成長できているようにと目標になります。

今月も紀和診療所での訪問診療、丸山千枚田の田植え、楯ヶ崎散策ツアー、熊野消防での救急車同乗実習、御浜分署での外傷病院前救護の練習、とイベント盛りだくさんでした。休日は大忙しでした。

今月号で僕が記事を書くのは最後になります。ここでは紀南病院のスタッフの方々、消防の方々、飲食店の方々の暖かさを感じる事ができました。一人の医師を周りの医療スタッフや病院に携わる人たち、飲み屋のおばちゃん含め地域の方々が成長させ、見守ってくれているような環境でした。2ヶ月でしたが、本当にありがとうございました。

来月からは三重大学病院の研修医として、こちらで学んだ事、再認識した事を生かして有意義に残りの研修生活を過ごしたいと思います。（高崎）

最近のお気に入りは「どえらい」という言葉。こちらに来てから毎日毎日そこら中で耳にします。病棟の詰所にいると1分間に1回は耳にします。このどえらいって言葉は東京でいう「超」、関西弁でいう「めっちゃ」にあたります。が、どえらいのすごいところは老若男女問わず広く使われているところ。うちの父は東京の人だけど超おいしいなんてまず言わない。しかし、紀南では90歳のおじいさんでもどえらいしんどいと言います。

最近のどえらく気になることは買物袋。紀南のスーパーに行くと買い物袋は持参が当たり前、買い物袋は有料となっています。これはいい風習だと思いながら、ついつい袋を忘れて買うことになるのですが。。。コンビニさえも袋といったら中身が丸見えの透明袋。自意識過剰な私は中身がすべて見えるのがどえらく気になってしょうがない。どえらい恥ずかしいと思いながら、どえらいという言葉が恥ずかしくてまだ使えない日々なのでした。（鈴木）

ほくしようのラーメンが好き、やきめしも好き。でも、僕は日本人・・・それはいいが、紀南にきて３週間、残すところ１週間、今まで何をしただろう？？？

京都GIMカンファレンスへの参加、高齢者医療相談、かとの会への参加、田植え、紀和診療所の訪問診療、飲み会。でも、やっぱり紀南病院での勤務時間が圧倒的に長い。だが、病院の人達に名前は覚えてもらっているだろうか？「こうれい」でも、「たかれい」でも、ましてや、「チェン・コーライ」でもない。決して中国や韓国、朝鮮の出身ではない。つい先日、兄に結婚の話が持ち上がり、相手の親に「中国から来た人なら結婚させません」とか言われ(そんな失礼な人達を親戚と思うことはきっとないが)、とうとう本気でオヤジが動き出した！！！実はオヤジが戸籍を遡ってみると、少なくとも明治初期か江戸末期にはすでにれっきとした日本人だったようだ。自分自身もけっこう驚いた。そして・・・いや、自分が日本人だという話はこれくらいにしておこう。

全然研修に関係のない話になった。そろそろ研修の話をしよう。がんばったことは研修医同士で仲良くしようと呼びかけたこと、あとは、学生さんにレクチャーを開いたこと。学生さんたちが良かったと思ったかはわからないが、聖路加ではもっと短時間での細切れしかできなかったので、今回も結局早口でまくしたててしまったが、他の研修医も交えて勉強会ができたのは自分としては良い機会だった。

マジメな話は、すぐに終わる。これでは記事としてメッセージ性に欠ける気がする。地域研修受け入れ先の方々に伝えたいこと。僕たちが地域に来て最も学ぶことは「違い１だと思う。良いとか悪いとかじゃなく、違うものを見て聞いて経験するから違うものをり、ひいては自分を知ることになる。知

病院の日常、地域の日常、そこに身をおくことから学んでいる。

だから普段通りでいて下さい。そこから多くのことを学んでいます。

2ヶ月あっという間でした。4月は車であっちこっちでかけていたのですが、5月は電車で一通り紀伊半島海側をめぐってみました。ゴールデンウイークは大阪に行ったのですが、行きはＪＲで津まで行って、そのあと近鉄に乗り換えて行きました。帰りは和歌山・新宮方面からＪＲで帰ってきました。長ーい道のりでしたが、いつも車で通過する42号線がたまに電車から見えるのが面白くて、本も読まず音楽も聴かず、一睡もせずに、外を眺めていました。津までの電車は途中から山の中を走るのであまり楽しくなかったのですが、帰りの和歌山方面からの海岸線はすごく綺麗で感動しました。

今、気になるお土産は、那智黒のねりあめ、串本の柚子羊羹、くじらです。一度、まぐろの塊を買ってきてみんなでひたすら食べたいと思っているんですけど誰か乗ってくれるかなー？

津に帰るのが寂しいですが、電車を使えば楽に来られるし、高速道路も安くなる？し、紀南は遠いところではないと感じています。（山本）

編集：山本　雅恵　　一面記事：高麗 謙吾　鈴木 由梨奈　高崎 亮宏